

6. 本市の景観形成の基本的な方向とめざす目標

6-1. 景観形成の基本的な方向と視点

(1) 景観形成の基本的な方向

北河内地域に位置する本市の景観を大きく構成している要素としては、次のようなものが考えられます。

第一に、地形的な条件からは、本市の景観的特徴を代表する淀川、寝屋川の河川軸景観や生駒山系から東部丘陵地にいたる豊かな自然景観と、これと一体化した住宅地景観などの要素があり、これらはそれぞれが有する自然的な環境とともに、景観面での親しみ、うるおいをもたらすものとしての役割を担っています。

景観形成・整備を進めていく上で、特に重要と考えられる要素としては、自然的な環境を形成する寝屋川、生駒山系から東部丘陵地にいたる緑は、将来的にも都市景観を支える重要な要素として位置づけられます。

言い換えれば、市街地を流れる寝屋川は、雨水や都市の排水を集め、都市の生活を支え、また、動植物が市民の身近なところで生息する自然として位置づけられます。

また、丘陵の緑は、市民にゆたかな緑の環境を提供し、活発な都市活動のエネルギーを再生する“都市の緑”として重要な役割を担っています。

第二に、都市構造上重要な景観構成要素としては、北河内地域をネットワークする道路軸景観、市民生活のシンボリック的沿道景観、人々が集う生活中心としての各鉄道駅周辺、市役所などの公共施設周辺がこれにあたり、市域の景観的シンボルとして位置づけられます。

これら大きな景観構造を構成する骨格的自然景観、都市の象徴となる都市拠点、道路軸景観などについては、歩行者の空間、水辺、レクリエーションの場としての充実を通じ、都市としての景観的・精神的シンボル景観の創出を図り、都市全体としての魅力を高めていきます。

北河内地域全体を規定している大きな景観要素

- 淀川河川敷の通景、広がり、水辺の景観
- 寝屋川の水辺の景観
- 生駒山系への遠望景観
- 東部丘陵の山辺の景観

寝屋川市の都市構造上重要な景観要素

- 広域地域における代表的な道路軸景観
- 市民生活のシンボリック的沿道
- 鉄道駅周辺のシンボル景観
- 市役所などの公共施設周辺のシンボル景観

(2) 景観形成の基本的な視点

本市では、良好な景観形成をめざし、次のような都市が持つべき基本的な視点により、景観を形成していく必要があります。

- ① ゆとりとうるおい、生きがいなど豊かさが実感できる都市の実現のためには、“うるおい”や“にぎわい”、“美しさ”は、景観形成の基本的な視点です。

うるおいをつくる

都市生活に落ち着きとゆとりを回復し、豊かな生活が営めるような環境をつくります。

にぎわいをつくる

人々が集い、ふれあう中で、都市生活における“楽しさ”を感じられるような魅力ある空間をつくります。

美しい都市をつくる

整ったまちなみ、緑や水が感じられるまちなみ、適度なスケール感、刺激的でない色彩などにより、住む人々の感性が感じられるような空間をつくります。

- ② 寝屋川市固有の都市環境の現状を踏まえ、より個性的で魅力的な都市へと高めていくためには、“新しい「ふるさとの風景」”や“アクセント(変化)”、“わかりやすさ”は、景観形成・整備に必要な視点です。

新しい「ふるさとの風景」をつくる

寝屋川市域がかつて持っていたふるさとの風景が失われつつあり、その良さを取り戻すとともに、都市施設や既存の市街地において、新たな“ふるさと”を感じさせる風景・風土をつくります。

アクセント(変化)をつくる

人々に感動を与え、まちの豊かな活動を表現する変化のあるまちなみをつくります。

わかりやすい都市をつくる

自分が立っている場所、方向性などの確認ができることによって安心を感じ、また地域の姿が明確に感じられるよう、都市空間に秩序をつくります。

6-2. 景観づくりの基本姿勢

未来を担う子どもたちが「ふるさと」として誇れる都市は、都市景観の面からは、歴史性、現代性、未来性を踏まえた新たな「ふるさとの風景」の創出が期待されています。

住み、働き、学び、遊ぶ、すべての面でゆとりとうるおい、生きがいなど豊かさを感じる魅力ある都市をめざし、次の世代に豊かな環境を引き継ぐことができるようにしていくことが必要です。

本市では、こうしたまちを創る“ねやがわブランド”の形成をめざして、継続的な情報発信を通じたまちのイメージアップを図るため、ブランド戦略基本方針「ワガヤネヤガワ・プロジェクト」を平成22年2月に策定しました。現在“ねやがわブランド”への発展をめざし、「香里園ブランド」の活用など市内鉄道4駅を起点としたさまざまな取り組みを進めています。

このようなまちのイメージアップを図る“ねやがわブランド”の形成には良質な景観形成・整備も欠かせない要素です。

そのため、本市をより個性豊かな、魅力的な都市としていくためには、次のような景観形成・整備に向けた基本姿勢が必要です。

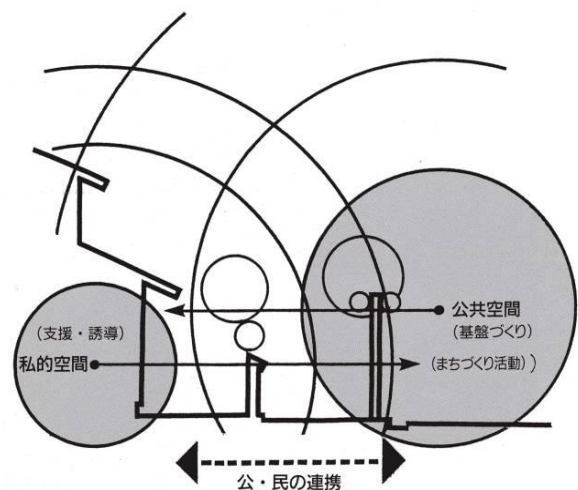
- ◇市民が親しみ、愛することができる対象、歴史的な環境、文化的な環境など貴重なものを守り、育て、混乱した市街地を秩序ある都市基盤をもつ市街地へ、また、現在持っている遠望などのすばらしい景観をいかしていくこと。
- ◇ひとつひとつの建物が、それぞれ個性を持ちながらまちなみを創り、全体として優れた都市景観を形成していくこと。
- ◇すばらしいもの、良いものを創っていく。さらに、看板・広告物など景観を阻害しているものはできるかぎり取り除き、また景観上好ましくない状況を創り出さない。

特に、景観形成・整備において対象とする空間は、公共・民間の幅広い連携をつくり、市民参加、企業参加などの気運の醸成、取り組みづくりを進める必要があります。

このため、今後の景観形成・整備に向けては、行政による先導的、基盤的な事業の推進とともに、民間活動（民地側）での統一的な取り組みが必要です。

また、景観形成のうえで重視される場所や景観的な変化が想定される場所などを中心に、私的空間においても半公共的な場所では、公共空間、私的空間の一体的な景観形成を図っ

市街地などにおける景観づくりの対象空間



ていくことが大切であり、民間と行政の統一的な取り組みによる景観の整序化、誘導が必要です。

さらに、都市の景観整備は、従来の行政各部門における都市整備、環境保全、自治、文化、福祉などの各種の施策を横断的に結びつけ、統合化・総合化していくところに特色があります。

したがって、景観整備を進めるにあたっては、基本的に次の 3 点を重視していく必要があります。

① 景観形成・整備のもつ総合性を重視すること

都市の景観を整備する意義は、地域にある自然、歴史、建築物、土木構造物などの人工の要素などがそれぞれ調和を保ちつつ、全体として市民の生活する「都市」を総合的かつ個性的に表現することにあります。

また、市民生活を反映した都市の雰囲気、文化的香り、心象風景なども都市景観を構成する重要な要素です。

さらに、景観の評価については、水と緑の自然環境、空気と音の環境条件と密接に関係する環境保全行政との関連も重視が必要です。

② 景観形成・整備には、極めて長い時間を要すること

景観形成・整備は一朝一夕に完成するものではなく、長い間の蓄積のなかで、調和ある景観が作りだされるものです。特に、昭和 30 年代からの大阪都市圏への人口集中により、急激に市街地が進展した結果、自然や歴史的環境など古くからあった多くのものが市街地の中に埋没したり、失われてきたりしています。

一方、急激に市街化された密集住宅地区などでは、残された自然や歴史的環境は貴重なものです。このため、長期的な視点にたち、周辺環境との調和を図りながら景観形成・整備に取り組んでいくことが必要です。

③ 市民の合意を形成しながら進めること

歴史や自然などを活かした美しく優れた都市景観は、市民の深い関心と積極的な活動をなくしては実現できないものであり、特に、この価値観の多様な時代に景観という主観に左右されやすい問題について整備を進めていくには、市民の合意形成は欠かせないものです。

今後、継続的な検討を行うとともに、行政各分野との連携・調整を図り、さらに市民への呼びかけ、働きかけなどによって、より大きな場において景観形成・整備に関する広範な合意形成の方策を模索しながら、取り組んでいくことが必要です。

6-3. 景観形成の目標

本市には、市民が誇りに思う様々な景観が数多くあります。今後、本市の景観を守り育てていくためには、景観に対する市民意識を高め、景観形成の担い手となる市民、事業者、行政が連携し、さらに“寝屋川らしさ”を醸し出し、元気都市・寝屋川をめざしていく必要があります。

そのため、本市がめざす景観の将来像を次のように定め、景観まちづくりに取り組んでいくこととします。

◇寝屋川市がめざす景観の将来像

ねやがわ“らしさ”と“おもむき”を協創する元気都市・寝屋川

本市がめざす景観の将来像の実現に向けては、「地形や緑、水辺などの骨格的な自然景観の保全・育成に努めること」や「市民の生活・文化のシンボルとして、魅力ある都市拠点景観を創出すること」、「うるおいとやすらぎ、そして、にぎわいや美しさのある魅力あふれる道路軸及び軸沿いの景観を創出すること」、「市域を構成するそれぞれの地域では、身近な地区の個性を活かした、ゆとりと親しみのあるまちなみの保全・育成とその創出を図ること」が必要です。

そのため、次の4点を景観形成・整備の基本的な目標とし、これらの実現に向けた施策の推進を図るものとします。

◇景観形成の目標

- ① 骨格的な自然景観の保全と育成
- ② 市のシンボルとなる景観の創出
- ③ 魅力あふれる道路軸及び軸沿いの景観形成
- ④ ゆとりと親しみのあるまちなみづくり

① 骨格的な自然景観の保全と育成

本市における自然環境は、大きく「淀川」「生駒山系」及び市の名称の由来ともなっている「寝屋川」に代表されます。

これらの自然環境は、都市景観の骨格をなすものであり、都市にうるおいをもたらすとともに、市民にとっての心のよりどころとしても貴重な資源として位置づけられます。

特に「寝屋川」は、本市のみならず北河内地域、大阪市などにおける都市形成の中で、さまざまな役割を果たし、また地域に住む人々の生活の舞台となってきたものです。

また、「淀川」や「生駒山系」については、身近に感じられる大きな自然環境として、また、市街地にあっても人々に方向性を与え、秩序を感じさせる要素として、市域の大きな景観の骨格ととらえられるものです。

これらは、北河内地域固有の景観資源として守り、育てるとともに、寝屋川らしい個性ある都市景観の形成に活用することができるよう、次のようなまちづくりを進め、骨格的な自然景観の保全と育成をめざします。

◇市域中央を南北に貫流する寝屋川周辺は、今ある“水”と“緑”の景観資源を活用しつつ、市民の散策・ジョギング・サイクリングなどの日常レクリエーションの軸として、また市民が憩い・集う場としての整備をめざします。

◇広域・地域のレクリエーションの場となっている淀川の自然景観は、都市的景観と調和を図りつつ、都市の“庭”としての活用をめざします。

◇带状に連なる市街地背後の生駒山系から東部丘陵地においては、現況の自然環境と調和を図りつつ、本市のみならず地域の自然型あるいは施設型レクリエーションの場としての活用をめざします。

② 市のシンボルとなる景観の創出

本市の都市形成の歴史は、比較的新しく、昭和 30 年代後半における大阪都市圏の外延的拡大の初期において、鉄道駅の周辺における住宅群の建設から、急速に進んできた経過があります。

このような中で、市内の鉄道駅、市役所などの公共施設の周辺は、現在でも人々が集まり、にぎわい、楽しみの多い場所となっているものといえます。

しかし、ゆたかな都市生活をおくる上で、人々が集う生活の中心となるような場を求める声は強く、都市空間を形成していくうえでも重視される課題です。

そのため、鉄道駅や市役所の周辺における市民が集う場は、市民がふれあい・語らい・憩う市民文化のシンボルの場となるよう、街路の緑化、彫刻、ポケットパークの設置などにより都市拠点に相応しいランドマークやまちなみの形成を誘導し、市のシンボルとなる景観の創出をめざします。

③ 魅力あふれる道路軸及び軸沿いの景観形成

市内における基盤整備の進展とともに、道路沿いに新しいまちなみの形成が進みつつあります。これらのまちなみは、本市の新しい顔としても位置づけられるものです。

道路軸景観は、市民にとっての日常的に触れる最も身近で主要な景観軸であるとともに、ひとつひとつの建築物、建築物の敷地、公共的な空間などが一体となって、景観を構成するものであり、市民、事業者、行政が連携して景観形成に取り組んでいく必要があります。

そのため、それぞれの道路軸や地域において、市民、事業者、行政の協創により次のようなまちの顔づくりを進め、魅力あふれる道路軸及び軸沿いの景観形成をめざします。

◇市域における基幹的な道路及びこれらの結節点については、主要な景観形成の対象として、積極的にまちなみ景観の誘導をめざします。

◇市民が集まる鉄道駅などにいたる「みち」については、心のふるさとのシンボルとして位置づけ、市民の協力を得ながら修景、緑化などによる景観の形成をめざします。

◇街路の緑化とともに、景観に配慮した建築デザインの誘導などにより、美しく、変化に富んだまちなみの形成をめざします。

④ ゆとりと親しみのあるまちなみづくり

本市では、都市形成の歴史の中でさまざまな特質を有する市街地が形成されてきています。市街地の多彩さは、本市の一つの特質でもあり、これらが混然一体となって、『寝屋川』らしさを醸し出しているものともいえます。

古くからの集落では、個性あるまちなみを残しなから、うるおいに満ちた生活環境が保持されています。

都市化の初期にあたる低層共同住宅が多くみられる地区では、半世紀近くにわたる“まち”の歴史・蓄積をもって、近隣相互の協力によって、親しみやすいまちをつくっているところもあります。

また、比較的新しい住宅地区では、すでに緑の豊かな美しいまちをつくっているところもあり、徐々に成熟に向かっていきます。

都市景観の形成や整備を進めていくうえでは、これらの地域が有する優れた特性を守るとともに、それぞれの地域において、身近なところで暮らす喜びが感じられるような“まち”を育んでいくことが、重要な課題です。

そのため、地域それぞれの個性を活かし、次のようなまちづくりを近隣が一体となって進め、ゆとりと親しみのあるまちなみづくりをめざします。

◇個性的な美しいまちなみづくりを進めるため、現在の地域の特徴をいかしながら、まち全体の景観の調和を図り、親しみのある文化的環境の創出をめざします。

◇市内各地域に存在する景観資源を再認識しながら、市民みんなでこれらを守り、景観形成のまちづくりに活かして取り組みをめざします。